

鹿兒島の動物21

サンゴの中にヘビ? 「イシカブラガイ」

動物担当 山田島崇文

先日、「このヘビみたいなのは何でしょうか?」と指宿市にお住まいの方からお尋ねがありました。よくみると、確かにヘビがとぐろを巻いているような感じで、白いサンゴの中に、チューブのようなものが入り込んでいます。(写真1)



写真1

実はこれ、貝です。アクキガイ科 Muricidae のサンゴヤドリ亜科 Coralliophilinae の仲間です。イシカブラガイ *Magilus antiquus* MONTFORT といいます。このサンゴヤドリ亜科の仲間は、イシサンゴやイソギンチャクなどの刺胞動物に寄生します。イシカブラガイは、幼貝のときに特にイシサンゴに入り込みます。イシサンゴが成長するにしたがい、どんどん管状の殻を延ばしていきます。同時に、この殻の中に、イシサンゴが分泌した石灰質が入りこみます。それが、一つの石灰塊として固まったものです。このサンゴの中で、うよきよくせつ 紆余曲折する

ので、成長に次ぐ成長で、30cm 以上になることも珍しくないようです。

いくつかお持ちになってくださったので、小さなサンゴの塊(写真2)から、イシカブラガイを取り出してみることになりました。サンゴと絡み合っているので、金づちとマイナスドライバーを使って丁寧に崩していきます。写真3はそれを取り出したところです。しかし、残念ながら途中で折れてしまいました。



写真2



写真3

このイシカブラガイ標本は、イシカブラガイとイシサンゴの壮烈な競争そうれつの成れの果てともいえると思います。生命のすごさ、力強さ、すばらしさを感じる標本です。

鹿兒島の昆虫24

セミの抜け殻を拾おう!

昆虫担当 金井 賢一

夏が来ますね! 夏はさまざまな昆虫が活発に活動しますが、その中でもセミに注目してみましょう。



写真1 マゼミの羽化

セミは地中で長い間幼虫として暮らし、羽化する際に地上で最後の脱皮をします。この抜け殻は木の幹などについてまますので、採集するのが簡単です。毎日通う場所、たとえばラジオ体操の集合場所などで、セミの抜け殻を毎日拾ってみませんか?

毎日拾うことで、日ごとの変化がわかります。雨の日の翌日は多いのかな? 台風の前に

はじっと我慢して出てこないのかな?

また、セミは抜け殻でオスとメスとの区別ができます。一般に昆虫は発生期の早い時期にオスが出て、しばらくしてからメスが羽化してきます。しかし発生期の後半にもオスが出てきます。セミの寿命は短いですね。早めに出たオスは早く力尽きるでしょう。それならば遅れて出てきたオスは、ライバルが少ない分、メスと結ばれやすいのでしょうか? それは鳴いているオスを見ていると、わかるかもしれません。



写真左: オス 右: メス (メスには突起がある)